

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東京外国語大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	即戦力通訳者養成のための高度化プログラム		
主たる研究科・専攻名	地域文化研究科言語応用専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 鶴田 知佳子		

### [教育プログラムの概要]

本プログラムは、英語通訳者として実社会で活躍する高度な職業人を養成するために東京外国語大学が設置した言語応用専攻国際コミュニケーション・通訳専修コースが行なう、修士課程2年間の集中的な教育プログラムである。本学は、言語応用専攻の目的を「日本語教育学、英語教育学、言語情報工学、国際コミュニケーション・通訳の各専門分野において、自らの専門性を磨いて研究能力を高めるとともに、その専門性を十分に活かすことのできる実践的な知識とスキルを有する高度職業人の養成をめざす。」(同学則第7条)と規定する。国際コミュニケーション・通訳専修コースは、この学則に則り、効果的で独創性の高い教育課程を編成している。

その特徴は、①確実にスキルを身につけさせる2年間の段階的、集中的な通訳実践教育、②実技の修得を理論的な面で補強するための理論研究、③国際舞台で通訳を行なうために必要な背景知識として社会科学の諸分野の教養の涵養、の3点にある。本プログラムにおいては、(Ⅰ)①～③の教育課程のさらなる充実につとめると同時に、(Ⅱ)特に、実践教育の一部をなす実務体験(OJT)の強化のための取組と、(Ⅲ)理論研究の成果をいかした教材開発を実施し、本専修コースにおける教育の高度化を進める。

### I-国際コミュニケーション・通訳教育の充実—3つの力の涵養へ

#### ① 通訳実践教育

1年次：「英語逐次通訳演習」科目(必修)を中核に逐次通訳の訓練を行い、一年次修了時までにはスピーチ、インタビューなどの逐次通訳のスキルの修得を果たす。

2年次：「英語同時通訳演習」科目(必修)を中核に逐次通訳で修得した技術を更に高め、同時通訳へ移行することを目標とする。様々な分野の国際会議での式辞挨拶訓練、ビジネス通訳、会議通訳などの訓練を行う。また、実務を想定して、現実の時事問題についての発表、討論を行い、訳出技術、時事知識、メディア・リテラシーなどを養う。

#### ② 理論研究

1年次：高度な専門家として実務にあたる素養を養うことを目的に「通訳理論」(必修)を開講し、通訳理論に関する既存の先行研究を検討し、各自の研究テーマを決定する。

2年次：指導教官の「専門特殊研究」を通じ、修士論文/修士研究の執筆を行なう。実技の修得を理論的に解析し、より高度な職業人としての自立を図ることがその目的である。指導には主・副の指導教官があたるとともに、2年次7月の論文中間発表会の節目を設定し、進捗状況を把握し、修士論文、修士研究の完成に結実させる。

#### ③ 社会科学諸分野の教養教育

国際舞台での通訳の実施にあたっては、世界諸地域の社会や国際関係に関する深い知識が要求される。その涵養のため、専攻関連科目として国際関係論研究、国際経済論研究、国際協力論研究、国際法研究などを指定し、地域研究の専門的講義を受講し高度な教養を身につける。

### II 実務体験(OJT)教育の強化

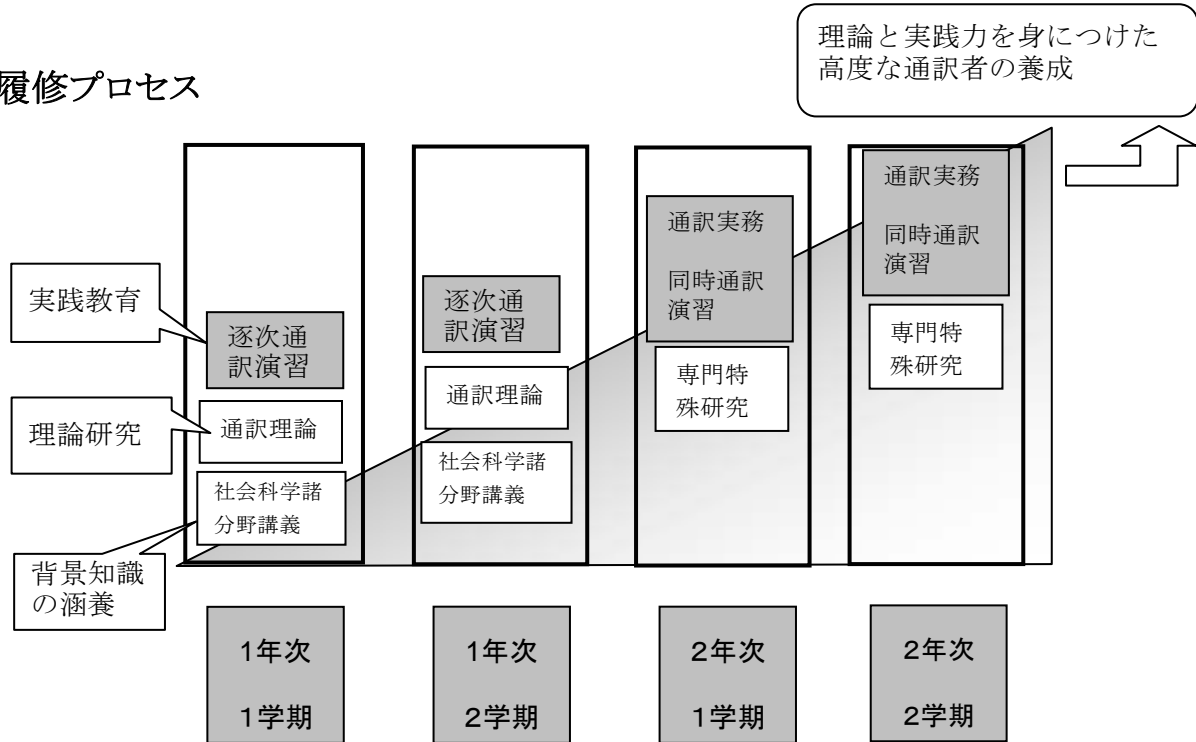
本専修コースでは、平成19年度より「通訳実務」(選択必修)を開講し、ゲストスピーカーを招いての模擬通訳を通じ、実際の現場に近い状況で通訳を経験する機会を設けている。さらに学内・学外での通訳実践を授業の一環として行なっている。本プログラムでは、とくにこの実務体験教育を強化する。プログラム独自のシンポジウムをオーガナイズするとともに、学内・学外の事業と協力、実務体験教育の場を組織的に設定し、実践的な訓練を行う。

### III 教材開発

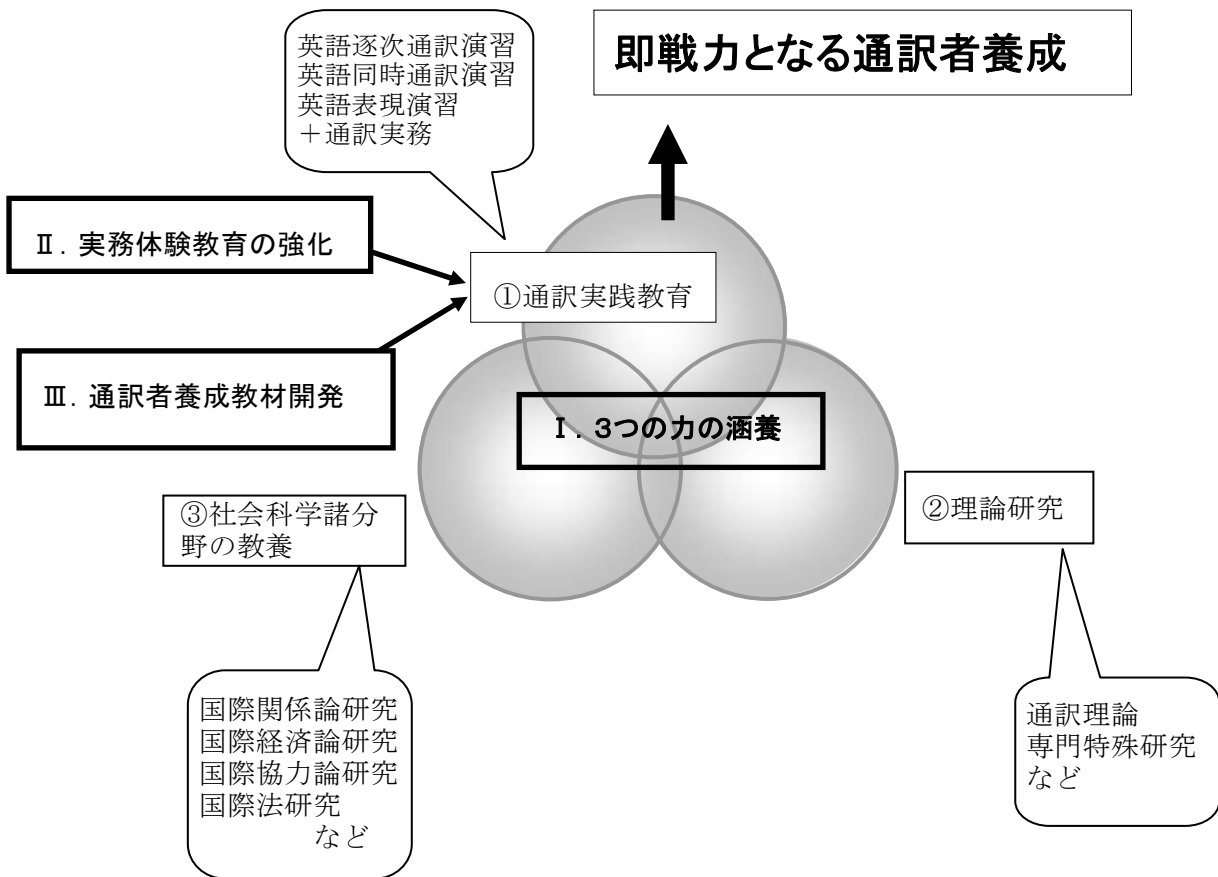
通訳者養成教育のより効果的な実施のため、国際的な場面での挨拶、対談、会議などの実際の場面を再現した、入門から高度なレベルにいたる通訳者養成教材開発を行なう。また、各専門分野別の通訳用語集の編纂を行なう。これらは随時、授業において使用すると同時に3年間の開発をへて、広く世界に公開する。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

### 履修プロセス



### プログラムの特徴



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「国際コミュニケーション・通訳の専門分野において、自らの専門性を磨いて研究能力を高めるとともに、その専門性を十分に活かすことのできる実践的な知識とスキルを有する高度職業人の養成」という、人材養成目的が明確に掲げられ、それに沿って、「専門的知識」、「研究能力」、「実践的な知識とスキル」を身に付けさせるための体系的な教育課程と教員組織が整備されており、教育プログラムを展開するための基盤が十分に整備されている。

教育プログラムについては、高度専門職業人である国際コミュニケーションの可能な通訳者の養成を具現化するため、これをコースにより、修士課程に特化して実現していこうとしており、その社会的ニーズも高く、実現性も期待できる。また、高度専門職業人養成という趣旨に沿って、修士論文に代えて、修士修了研究を修了要件として認めている点はコースの目的を実現する上で有為な取組である。ただし、「国際舞台で通訳を行うために必要な背景知識としての社会科学の諸分野の教養の涵養」は重要な視点であるが、それを展開するための具体的なカリキュラムやその内容、修得方法等については、なお整備すべき余地がある。